

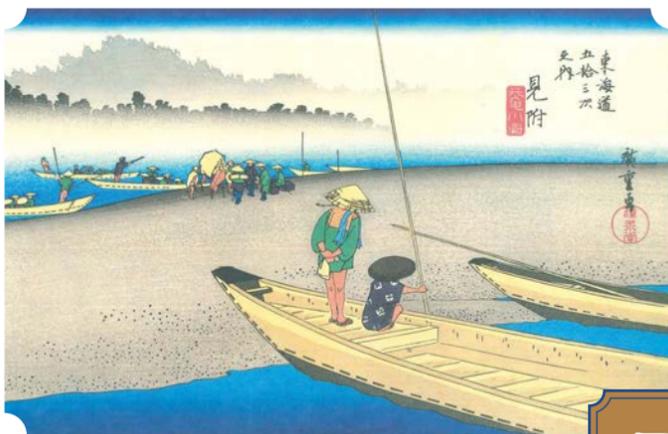
東海道五十三次を往く

第22回

見附宿

富士が「見付」かる 天竜川の川越宿

西から東海道を進むと、ここで初めて富士を見付けられることから「見付」の名がついたといわれる。平安時代には遠江国の国府が置かれ、古くから栄えた町。江戸時代には天竜川の川越宿としてにぎわった。付近に神社や寺院が点在するのが特徴で、史跡とともにゆっくりと巡るのもよい。また、道の北側の高台には旧見付学校の白亜の校舎が見え、地域におけるシンボリックな存在となっている。



天竜川

昔は船で渡っていた天竜川。浜松側へ渡ると、船場橋跡がある。川幅が広く、流れは比較的穏やか。夕暮れの静かな河原で、童心に戻って水切りを楽しんだ。



大見寺

天明5(1785)年に世界初の滑空飛行に成功したと言われる浮田幸吉の墓がある。近くには幸吉の住居跡も。



本陣跡周辺

本陣跡は旧見付学校から比較的近く、街道の両側にある。写真の本陣跡のほか、脇本陣跡、木戸跡、問屋場跡にも同様の木札が設置されている。夕暮れの街道の趣もまた格別だった。



ミスモ編集部が東海道五十三次を巡る旅も後半へ突入。見附宿では、付近の神社や寺を巡り、夕暮れが美しい天竜川の河川敷を歩いた。

見附宿を一望



愛宕神社

見附宿の東入口付近にあり、火防の神として鎮座。石段を上ると宿場町全体が見渡せる。

タイムスリップした気分♪



【写真上】1階では当時の教室を再現。みんなで席に着き、当時の生徒気分を味わった。【写真左】2・3階は資料を展示。大人世代には懐かしいめんこも。

旧見付学校

現存する日本最古の擬洋風木造校舎。明治8(1875)年の開校時は2階2層建てだったが、明治16(1883)年に3階を増築し、5階建てになった。趣のあるレトロな校舎は最上階まで見学でき、資料なども豊富なのでじっくりと回ってほしい。

5階から望む風景。当時の子どもたちも同じ窓から街を見下ろしていたのかもしれない。



静岡県磐田市見付2452
☎0538-32-4511
🕒9時～16時30分
📅月曜(祝日の場合は翌日)

太鼓

当時は5階窓より太鼓で授業の始業を告げていた(現在はミニチュアを置いている)。



おみやげ

粟で作った餅を餡で包んだ一口サイズの菓子で見付天神名物。もちもちとして軟らかく、甘さは控えめ。

井口製菓

静岡県磐田市見付2663
☎0538-32-3951
🕒9時～18時(日曜は17時まで)
📅休水曜

栗餅 10個入1,100円

